

コラム

瀬田しようこと

探してみよう、郡山から始めたいこと。

こんにちは、瀬田しようこです。郡山生まれ郡山育ちで、安女（黎明）卒の経済学博士。日本、英国、ニュージーランドの政府・中央銀行で、市場や銀行の政策を作り運営する仕事をしています。10年以上、海外で生活していて見えてきた「あー、こんなこと郡山からできたら、かっこいいなあ」をまとめています。



第一回 郡山と日本と英国とニュージーランド

郡山の良いところって沢山あるけど、やっぱ一番は「人」だと思う。
新しいことに興味があっぱい、面白いと思うことをやってみるのも好きだばい、それに、結構たくましいばい。

今回は、郡山の「人」という財産に、どのくらい伸びしろがあるのかを見ていきたいと思います。

伸びしろを考えるために、まず日本と英国とニュージーランドを比べてみましょう。

人はいるのに、活躍仕切れていない！

日本も英国もニュージーランドも島国です。

面積が一番広いのは日本。ニュージーランドは日本の約4分の3、英国は約3分の2。¹

人口が一番多いのも日本。英国は日本の約2分の1、ニュージーランドは約25分の1。²

国民総生産が一番高いのも日本。英国は日本の約85%、ニュージーランドは約6%。³

ところが、人々の平均的な豊かさを表す一人当たり生産額（一人当たりGDP）を見てみると、順位は大逆転。一人当たり生産額が一番高いのは英国。ニュージーランドは英国より数パーセント低いだけではほぼ同じ。日本の一人当たり生産額は、英国やニュージーランドのたった約3分の2です。⁴

これは、端的に言うと「人はいるのに、十分に活躍仕切れていない」ということなのです。
とってももったいない、日本の問題です。

みんな活躍したら「今の倍」、そしてもっと

では、ここで郡山の出番です。データから、郡山の「人」という財産に、どのくらい伸びしろがあるのかを見てみましょう。伸びしろには幅があった方が良いので、郡山広域圏にも登場してもらいます。

まず、伸びしろの先にある未来の姿を描くために、東京都、英国、ニュージーランド、それぞれの一人当たり生産額と人口密度を見てみましょう（表1）⁵

1 基礎データ

日本 <https://www.japan.go.jp/japan/index.html>

英国 <https://www.mofa.go.jp/mofaj/area/uk/data.html#section1>

ニュージーランド <https://www.mofa.go.jp/mofaj/area/nz/data.html#01>

2 世界銀行 2024 年人口データ <https://data.worldbank.org/indicator/SP.POP.TOTL>

3 国際通貨基金 2024 年 GDP データ <https://www.imf.org/external/datamapper/NGDPD@WEO/NZL/GBR/JPN?year=2024>

4 国際通貨基金 2024 年一人当たり GDP データ <https://www.imf.org/external/datamapper/NGDPDPC@WEO/NZL/GBR/JPN?year=2024&yaxis=lin>

5 郡山市データーブック <https://www.city.koriyama.lg.jp/site/toukeikoriyama/5839.html>

表1 みんな活躍して「今の倍」、そしてもっと

	一人当たり生産 (百万円)	人口密度(人/km ²)
東京	7.8	6,408
英国	7.6	276
ニュージーランド	7.2	19
郡山市	4.2	428
郡山広域圏	4.0	183
(参考) 日本	4.9	331

東京と英国とニュージーランド、3つの地域とともに、人々の平均的な豊かさを表す一人当たり生産額は、約7百万円程度です。

しかし、同じ価値を作り出すのに、どれだけの人がその地域にいたのでしょうか。東京都は一平方キロメートル当たり6000人以上、英国は276人、ニュージーランドはたったの19人です。これは、「みんな活躍」できれば、たとえ人は多くなくとも、同じくらいの価値を作り出せることを示しています。

現在、郡山市には一平方メートル当たり428人、郡山広域圏には183人います。これはニュージーランドの19人より遥かに多いです。英国は、郡山市と郡山広域圏の間くらいの人口密度です。

一人当たり生産額は、郡山市、郡山広域圏ともに約4百万円程度です。これは、ニュージーランドや英国の約50%強程度の額です。つまり「人はいるのに、その約半分は、十分に活躍仕切っていない」という状況です。

「郡山には何にもないから...」と聞くときがあります。しかし、実は、結構「人」がいるのです。その人が「みんな活躍」したら、一人当たり生産額が、今の倍、更にもっと増える潜在力もあるのです。郡山の「人」という財産の伸びしろは、少なくとも今の倍は豊かになれる分もあるのです。

その上、郡山には、ニュージーランドや英国のように、街やオフィスや住宅だけではない、のびのびとした多様な地域環境も身近にあります。これは東京にはない優位性です。郡山の目指す姿は、東京である必要はありません。

伸びしろの先にある郡山、どんな未来の姿をターゲットとして据えますか？

のびのびとした環境の中で、みんなが活躍できて、豊かさを表す一人当たり生産額も高まれば、「あれ、郡山って、何だかおもしろそう」「あれ、郡山って、ワルくないかも」と、郡山に移り住んでくる人も増えるかもしれません。「人」が増えれば、更なる好循環が生まれる可能性もあります。

まとめキーワードを作るなら、「みんな活躍」「一人当たり所得↑」「人口も↑」です。

郡山広域圏構成市町村データブック

<https://www.city.koriyama.lg.jp/uploaded/attachment/100159.pdf>

国際通貨基金為替レートアーカイブより、2022年10月の平均為替レートを使用して円建てに変換

https://www.imf.org/external/np/fin/data/param_rms_mth.aspx

東京都都民経済計算 <https://www.toukei.metro.tokyo.lg.jp/keizaik/kk-index.htm>

郡山だから、ちょうどいい。郡山からできたら、かっこイイ！！

ここまで話すと、「人はいるのに、十分に活躍仕切っていない」って、日本の問題で、別に郡山に限った話じゃないよね、それに郡山から何ができるの？って思いますよね。

ごもっとも。でも、この日本の問題、とても大きすぎるんです。問題が大きすぎる時は、できる規模から、小さく始めてみることが得策なのです。ニュージーランドの首相も「Chunk it down!」と言っています。⁶

From page 1 // Luxon on ‘chunking it down’

legislation earlier in the day yesterday, Luxon explained the basic approach.

“We could carry on the same conversation we’ve had for the last 15 to 20 years – ‘we’re gunna gunna gunna do something one day’ – but the reality is we’ll just chunk that down into three big bits.

“So, you know, that even though it’s a big topic, and it’s a large topic, and you could start it anywhere and you can have lots of debate and lots of meetings and lots of discussion about it, and nothing’s getting changed, you can actually chunk it down and make it executable through the quarterly and through the 100-day plan.”



Prime Minister Christopher Luxon plans to continue the momentum he thinks the Government has, with quarterly targets for his Cabinet and the public servants underneath them.

a sense of the culture and the direction of travel,” he said.

However, I think it’s a

もちろん、この問題は、他の地方都市からでも解決できてしまうかもしれません。でも、郡山には、新しいことに興味があって、おもしいことも好きで、結構たくましい「人」がいます。なので、この財産を活かして、他の都市に先を越される前に、郡山から日本の問題を解決できたら、すごくかっこいいですよね。

で、具体的に何ができる？

はい、このコラムの出番です。具体的にどういうことができるのかを考えるためのヒントとして、海外で生活しているうちに見えてきた様々な仕組みや「あー、こんなこと郡山からできたら、かっこいいなあ」を、次回からまとめていきます。

大まかに、このようなことを何回かに分けて書いていく予定です。

- 良いところを見つけて活かす仕組み
- 入口がある社会。社会全体で「会社」
- 日本一、社外取締役候補を見つけやすい市
- 仕組みを考えて、つくって改善していく仕組み
- 答えを見つけるための方法をじっくり体得する仕組み

おまけ

もう何年も前に、英国の新聞に、もし英国人がこう言ったら実は内心こう思っている、という面白い記事がありました。例えば「That’s not bad」って言ったら、それは実は「That’s good」って意味、と言う感じです。実際のところは、もともと期待してたのか、そうでなかったのかによっても変わると思います。でも、「郡山ってそんなワルくないばい」って、自分たちで思えて、周りからもそう思われる街になれたら良いですね。もちろん、実の意味は「郡山ってイイばい」です。

他の回へのリンク

<https://www.city.koriyama.lg.jp/soshiki/34/140355.html>

6 <https://www.thepost.co.nz/politics/350203597/100-days-christopher-luxon-chunks-it-down>

